

第 2 回会合におけるビジョナリー意見のポイント

< 制度設定 >

1 社会実装を前提とした仕掛けづくり

- ✓ 技術開発だけでなく、社会実装の枠組みも備えた制度とすることが重要（全委員）
- ✓ 今日の多くの課題は、社会的な変革がなければ、テクノロジーだけでは解決できず、社会システムの変革までも想定したもの（テクノロジー＋社会変革連動型）が 21 世紀型のムーンショットになるのではないか。そのためには、非常に早い段階から産学連携や国際ネットワークが立ち上がったり、スピナウトがたくさん生み出されて急成長するベンチャー企業が課題解決の一翼を担ってくれたりするような仕掛けが必要（北野委員、落合委員）
- ✓ 社会変革的なイノベーションを生み出すには、法律等による既得権益を壊すこともあり得る。ポリティクスとテクノロジーの両面から研究開発を始めることが必要（落合委員）
- ✓ ラジカル・イノベーションを目指しつつ、そこから破壊的イノベーションが誘発される仕掛けが重要（北野委員）

2 グローバルかつオープンな仕掛けづくり

- ✓ グローバルに、日本がリーダーシップを取っていけるエコシステムを目指すべき（西口委員）
- ✓ 世界中を巻き込んで全世界を動かしていくという意気込みでやるべき（北野委員）
- ✓ プロジェクトの実行段階においてもオープンな仕掛けであることが重要。ポストク、女性研究者のキャリア問題に関するロールモデルになる（藤井委員）
- ✓ 人文系の研究者の参加が非常に大事。声が届かない人、苦しんでいる人の課題解決が図られることを目指すべき（尾崎委員）
- ✓ 技術開発だけでなく社会実装できるエコシステムの構築、世界の人的資源の活用、社会受容性を考慮した人文社会科学的なアプローチを包含すべき（COCN）

<目標設定>

1 設定の考え方・基準

- ✓ 一言で言い表せるまで研ぎ澄ますこと、人類の未来を変えるような目標であること、また、単なるスローガンではなく、非常に大きな困難に対して希望が見える目標であったり、すごく共感が得られて、未来を見通せるような、未来の姿をコミットメントする目標にする必要（北野委員）
- ✓ 法律の変更も含めた社会システムをデザインするような目標が重要（西口委員）
- ✓ 例えばCO2資源化のミッション例であれば、二酸化炭素市場を創設し、国内の排出量を半減するような、具体的なコミットメントが必要ではないか（藤井委員）

2 対象とする研究開発

- ✓ 関係府省が普段どこもケアしていないようなことこそ、未知の課題を内包している可能性。今までタブーとして議論してこなかったような話にこそイノベーティブなアイデアがあるかも知れない（落合委員）
- ✓ 今日、多くの問題が都市に起因することに鑑み、21世紀後半に向けた新しい都市像を検討すべきではないか（ヤフー宮坂会長）
- ✓ 我が国が、急激な高齢化や労働人口の減少といった課題先進国であり、新たな技術でひとり一人の生産性を高める、高齢になっても意欲ある人々が働くことができるなどをジャパンモデルとし、世界の課題解決に貢献していつてはどうか（COCN）
- ✓ 日本の生殖医療は世界でもトップクラス。男女の人生設計や労働人口にも影響を与えるので、妊娠出産に関連する技術にも投資したらどうか（尾崎委員）